

資母村誌



雲行  
雨施

喜德題

下關郎德喜木一 臣大内宮



内務大臣 望月圭介閣下



行 爲 正 當

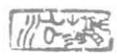




家承



伊 德 苦 村



宗稷篆繼義子爵仙石政敬閣下



兵庫縣知事 長延 連閣 下

神

玉

珠

如

長延連



大本山東福寺派管長 尾關本孝師



酒所

鳳林





世道人心  
為後



衆議院議員(本縣選出) 齋藤隆夫氏



里息崇  
 大立成  
 女山走



衆議院議員(本縣選出) 若宮貞夫氏



朝鮮總督府警務局長(元出石郡長) 森岡二郎氏



日進

日新

乃







翁 勉 井 櫻 等三勳位四正

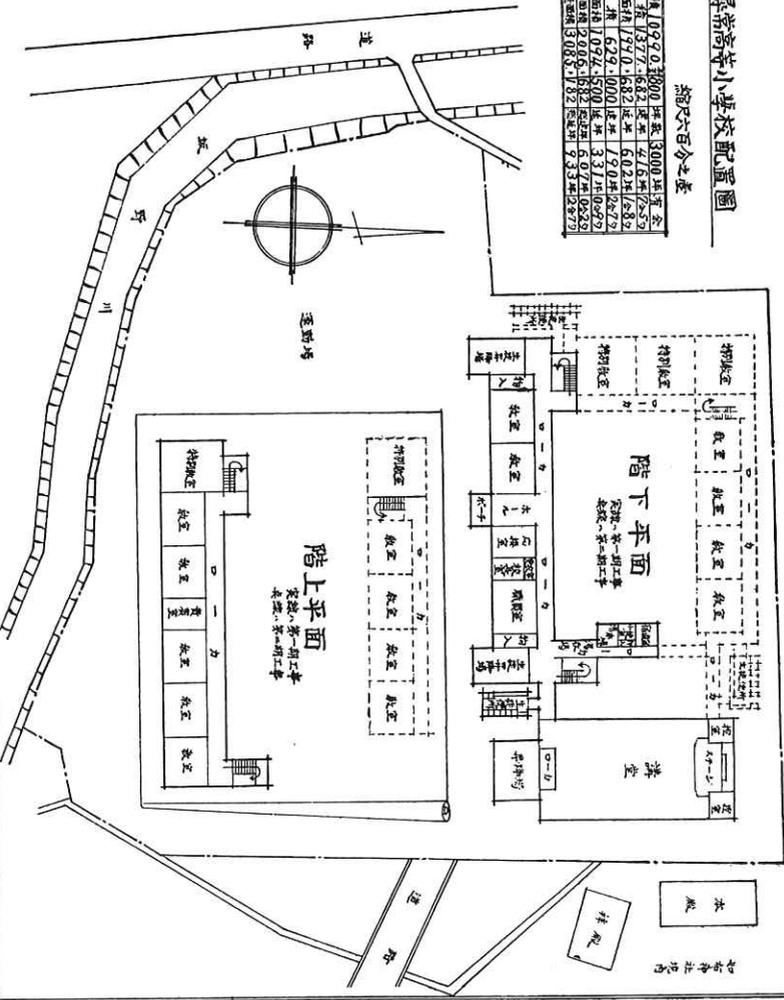


資母尋常高等小學校 昭和九年改築起工

資母尋常高等小學校配置圖

總尺六百分之一

敷地面積	1,099.0	坪數	3,000	坪數	全
築地	西 737.7	坪數	68.2	坪數	4/6
坪數	東 737.7	坪數	68.2	坪數	坪數
坪數	南 629.0	坪數	1,000	坪數	60.2
坪數	北 707.2	坪數	800	坪數	79.0
坪數	全面積	1,099.0	坪數	3,317.0	坪數
坪數	全面積	2,008.2	坪數	1,022.2	坪數
坪數	全面積	3,008.2	坪數	1,022.2	坪數

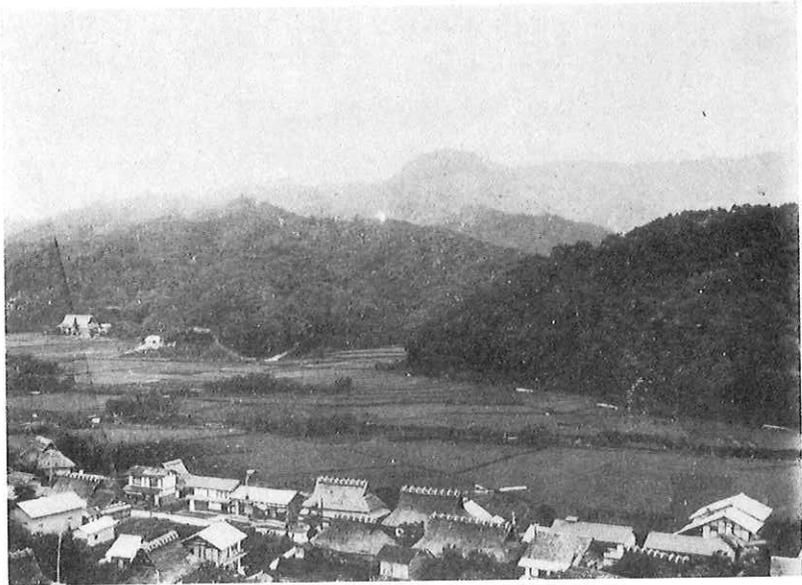


如有不足者

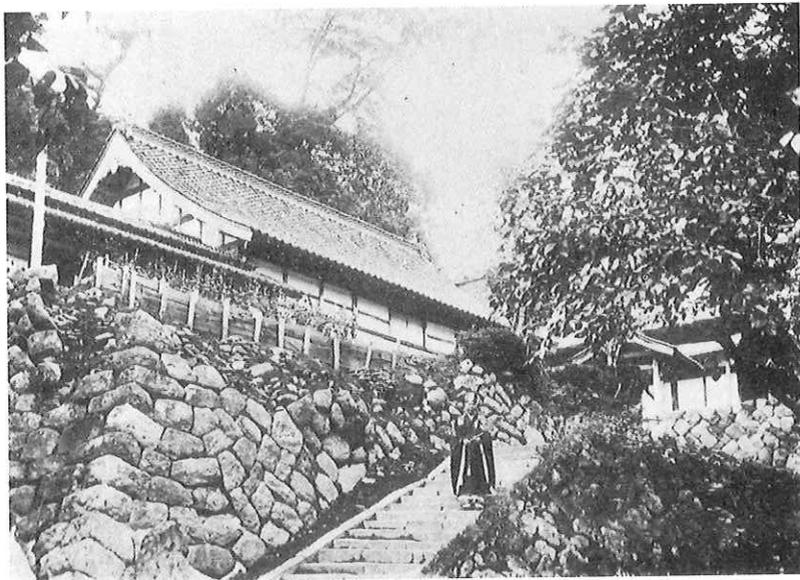
詳規

水規





中 山 城 山 中 山 藏 金 り よ 山 望 む

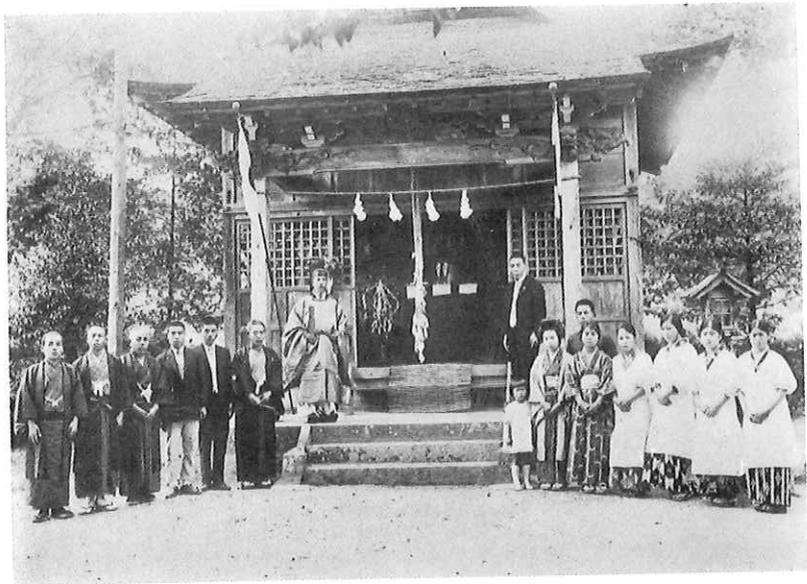


中 藤 玉 宗 寺





典祭社神遅比藤口



殿社社神布如山中





小畑源之助氏





今 井 甚 兵 衛

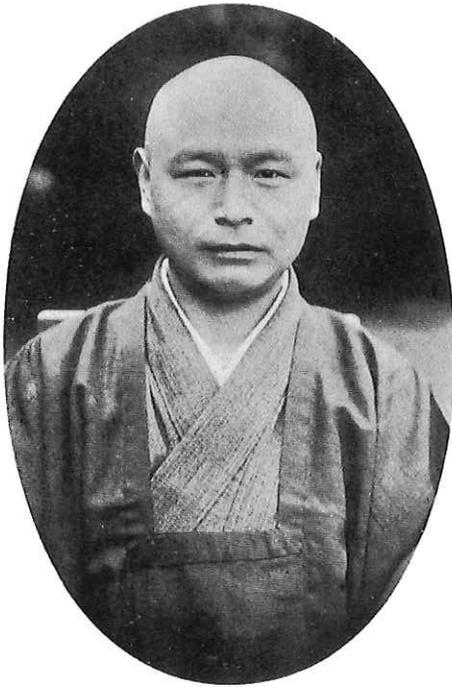


太 田 誠 一



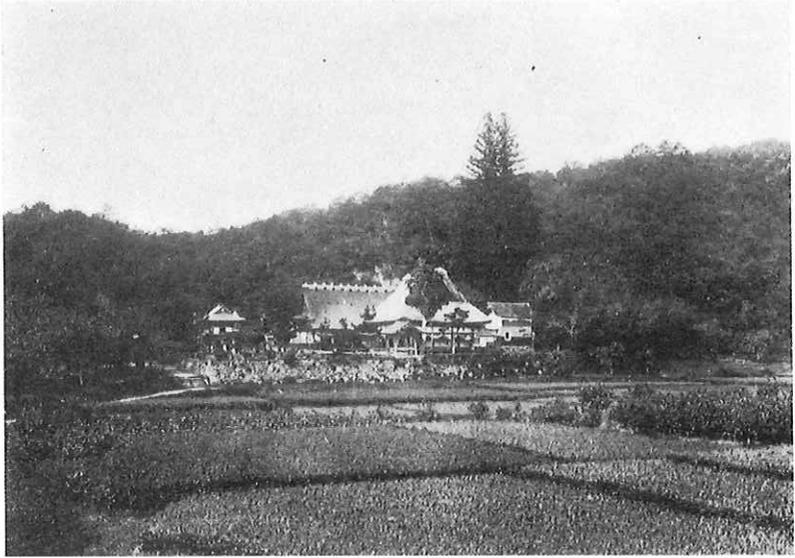


次 村 田 黒



道 熙 野 矢





寺 雲 藏 山 中



場 役 村 母 資



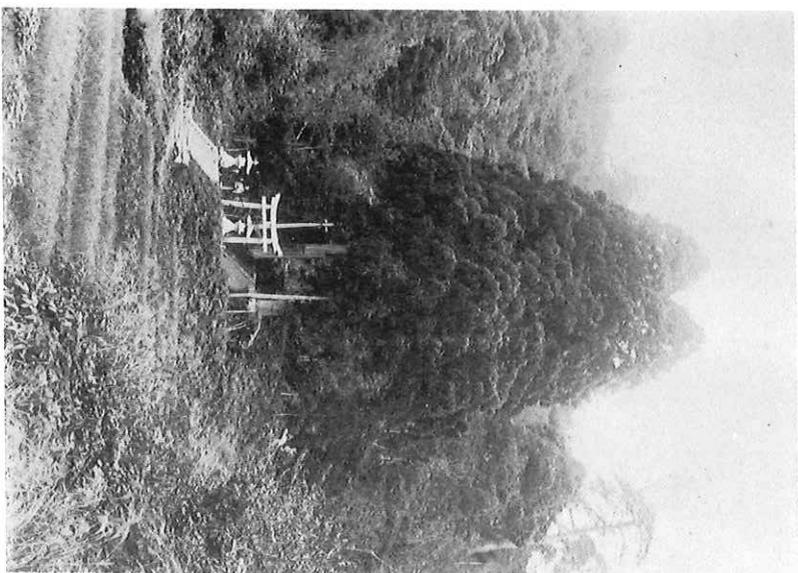


校 母 資



校 田 太 と 跡 城 ケ 龜





赤花鬼子母神



赤花管谷夫婦岩



## 序

資母村は出石郡の東端にあり、境を丹後に接し、交通甚だ不便の地なるに拘らず、鎌倉時代より事跡の史上に散見するもの少なからず、而も之が記録の存するなく、口碑傳説は時代の推移とともに漸く湮滅に歸せんとなす。

殊に近世に至り、奎運の勃興と共に幾多の變遷あり、後代に記録すべきもの又更に多きを加ふ。今にして郷土誌編纂の業を起すにあらずんば悔を千載に貽すものあらんか。

昭和戊辰 聖上即位の大禮を擧げさせ給ふに際し、深く之を思ひ、好個の記念事業として村誌の編纂を村會に上議し、滿場一致の賛成を得たるを以て、直ちに太田、黒田、矢野三氏に囑して其委員となし、爾來三星霜を以て校本の完成を告ぐ。此に於て櫻井勉翁の校閲を乞ひ之を「資母村誌」といふ。

幸に本書が郷土史實の貴き記録として、先人の事蹟を後代に傳へ、一面また村民の愛郷觀念を喚起するの資料ともならば、其の益する所のもの甚だ大なるべきを信ず。

本村出身の小畑源之助氏此舉を賛し欣んで上梓の資を捐せらる、乃ち一言を辯じ之を序となす。

昭和六年三月

資母村長 今井甚兵衛

## 序

凡そ文化の發達と共に社會の事情變轉し、昨の尊きもの今は卑く、古人の拮据經營幾多の心力を勞して、之れを保存し、苟も其壞破湮滅せんことを恐れしもの、今人は視て以て無用の長物となし、之れを殘破遺棄して顧みず。吾人此方面に志す者一般世人と其感懷を異にするものあり。夫の古文書の如き或は古器物の如き、又は遺趾古跡の如き、吾人は探て以て徵古の資に供せんとするも、古文書は破棄せられ、古器は玩弄品として賣却せられ、或は墳丘は鋤れて野田となり、名跡は毀たれて荒原と化す。營に貴重の史料を奪はるゝのみならず、往事を追想せば、人をして轉感愴せしめざらんや。此の如くして進まば史料日に湮滅して杳然尋ぬ可らざるに至らん。村長今井甚兵衛氏爰に觀る處あり。曠古の御卽位式を記念すべく村誌編纂を企圖し、之れを囑せらる。余等乏を以て其任に當り三年の歲月を閱し漸く完成の域に達せり。只、其聲價の大にして實質の

小なるを耻づ、固より杜撰粗笨の譏を免れず。爰に出版に當り編纂委員を代表し卑言を述べ以て序とす。

昭和六年三月

資母村誌編纂委員長

太田誠一

## 凡 例

一、引用は成るべく原文を掲載し猥りに變改せず。

二、本書編纂の資料として記録文書の必要なるは今更贅せず、之れが踏査蒐集に當り各校長並に里長立會諸氏及舊家より有力なる資料の借覽又は調査の便を與へられしに對し謝意を表す。

一、本書編纂に着手せしより第一年は殆ど史實蒐集の爲、各村を踏査し、第二年は専ら編纂に従事す、第一篇地誌、第二篇年代、第三篇神社、第六篇教育、第七篇舊蹟、第八篇人物は太田委員之を擔任し、第四篇寺院、第五篇教派神道、第九篇民俗は矢野委員擔任す。

一、本書は務めて正確を期したれども編者の淺學且寡聞なる、或は誤謬脱漏あらん事を恐る、若し諸賢の示教を得ば幸甚なり。

編 纂 委 員

## 本誌編纂經過

資母村昭和三年度豫算に於て、昭和三年十一月十日行はせらるゝ曠古の御大典を記念すべく、村誌編纂を企圖し經費を計上せり。

一、昭和三年六月一日、今井村長より左の委員を囑託す。

委員長 資母村助役 太田 誠 一

委員 如布神社神職 黒田 村 次

委員 藏雲寺住職 矢野 熙 道

一、同年七月五日委員打合會を村役場にて開催す。

一、昭和三年七月十一日里長會席上、村長及太田委員より各部落へ材料蒐集の爲、出張之際、便宜を與へられん事を依頼す。

一、八月一日委員中山村へ出張、里長橋本岩造氏宅にて村文書閲覽、如布神社調査。

一、八月二日委員中山村出張堀三右衛門氏宅にて、中山家文書閲覽、赤野神社調査、澁谷喜兵衛氏宅訪問。

一、八月四日委員虫生村出張、山本重太郎氏宅にて文書閲覽、里長山本弘三氏立會阿牟加神社、谷虫生調査、澁谷謙三氏訪問。

一、八月六日太田、矢野委員中藤村出張、岩破甚五郎氏宅訪問、玉宗寺、八幡神社調査。

一、八月七日委員奥藤村出張、多寶院調査、里長澁谷謙二氏宅にて立會諸氏と村文書閲覽、大將軍神社、奥宮神社、比遲神社調査、佐古龜藏氏宅にて同家文書、水口寅藏氏文書閲覽。

一、八月二十六日委員東里村出張、里長高橋林藏氏宅にて立會諸氏と村文書閲覽、下村神社、道場調査。

一、八月三十日太田委員口藤村出張、里長小畑謙一氏宅にて立會諸氏と村文書調査、比遲神社、城趾調査。

一、九月三日太田委員坂野村出張、里長西田寅藏氏宅にて小西宇三郎、橋本吉之亮、高垣徳右衛門諸氏と文書閲覽、稻荷神社、愛宕神社、元宮神社、古墳調査。

一、九月四日太田、黒田委員東里村へ出張、里長高橋氏外諸氏と東里岳登山、吉野神社、寺跡調査。

一、九月七日委員太田村出張、里長鹽川松藏氏宅にて立會諸氏と村文書閲覽、五輪ヶ谷

愛宕神社調査、殊に五輪ヶ谷にて里長立會諸氏の努力に依り多大の便宜を得たり

一、九月八日委員西野々村出張、里長今井鶴造氏宅にて立會諸氏と村文書閱覽、若宮神社、姫の坂城跡、ワラ谷調査。

一、九月十日太田委員人夫を率ゐて木村、孝子勘太夫の墓石捜査、後唐川字奥山に至り太田氏事蹟調査。

一、九月二十一日委員坂津村出張、里長中野利雄氏宅にて村文書閱覽、山口神社、青倉神社、不動堂、長禪庵調査。

一、九月二十二日委員日向村出張、里長野村豐藏氏宅にて立會諸氏と村文書閱覽、藥師堂調査。

一、九月二十五日委員高龍寺出張、小牧豐太郎氏宅にて立會諸氏と村文書閱覽、産靈神社、高龍寺跡、古墳墓調査。

一、九月二十六日太田、黒田委員畑山出張、永井三郎左衛門氏宅にて里長永井磯治氏及び各部落より立會一名宛會合を乞ひ觀音堂、上藥師、水影神社、日出神社、岡野神社、御池、玄通庵跡、古墳等調査。

一、九月二十七日委員人夫を率ゐて金藏山に登り、金藏寺跡につき、池、井戸等遺物調査。

せしも得る處なく、古碑の年代を讀み得て參考とす。

一、昭和四年一月七日太田、矢野委員編纂につき打合せをなし、年代、神社は太田委員擔當とし寺院は矢野委員擔任とす。

二、一月三十一日太田委員村役場文書調査。

一、二月五日太田委員人夫をして村役場古文書を整理せしめ閱覽す。

一、二月二十八日村會に於て、昭和四年度豫算に村誌編纂費を可決す。

一、三月三十日太田委員擔任村誌第三編、神社脱稿す。

一、五月二十二日委員打合會開催後、中山橋本彦兵衛氏を訪ひ中野氏事蹟其他調査。

一、六月四日太田、黒田委員神社につき打合。

一、七月八日委員赤花村出張、小西利一氏、本田長次郎氏立會、村文書閱覽後孝子お蝶の墓外村内巡視す。

一、七月九日委員中藤村出張、里長清水重次郎氏宅にて村文書及岩破甚五郎氏、岩破平右衛門氏所藏文書閱覽。

一、七月十日委員赤花村渡邊慶藏氏宅にて元中赤花村文書を閱覽し、奥赤花愛宕神社、小西六郎右衛門氏調査後、里長桑垣淳一氏宅にて村文書閱覽、丹後與謝郡與謝村瀧施樂寺加悅町西光寺を訪ひ、金藏山、栗丹寺關係調査し文珠に到り宿す。翌十一日

知思寺調査歸村す。

一、七月十六日太田、黒田委員神美村倉見に到り、小出家及び宮内村出石神社調査即日歸村す。

一、八月六日委員今井雨香氏を訪ひ同家古文書閲覽、及明治史につき調査後村役場にて今後の編纂方針打合す。太田委員年代、神社、教育、舊蹟、人物を擔任し、矢野委員寺院、教派、神道、寺院に關する人物、民俗を擔任する事とす。

一、八月二十日太田委員擔任第二篇「年代」稿成る。

一、九月一日委員會開催太田委員擔任の「年代、神社」の二編を村へ提出す。

一、九月七日太田委員擔任第六篇「教育」稿成る。

一、九月十日太田委員擔任第七篇「舊蹟」稿成る。

一、九月十四日第六篇第七篇村へ提出。

一、十月二十五日太田委員擔任第八篇「人物」稿成り村へ提出す。

一、昭和五年二月二十日矢野委員擔任第四篇寺院第八編人物第五編教派神道及第九編民俗の稿成る。同日村に提出す。

一、三月一日校閲の爲稿本全部を櫻井先生に提出す。

一、昭和六年三月三十日櫻井先生の校閲を了す。

## 資母村誌の復刊にあたって

資母村誌は昭和九年、当時の地方誌の先駆けとして、画期的な発想で発刊されたのでありますが、その卓越した郷土史としての史実は但馬の歴史を語る上で貴重な資料として高い評価を受け、町民の心の財産として広く親しまれてきました。

そしてこのたび、生まれ育った自分達の土地を見直したい、勉強したいと各界各方面からの要望も多く、初版発刊後五十幾星霜を経た今、復刊することになったことは、誠に慶ばしい限りと存じます。

時あたかも平成の時代。人も、情報文化の交流による都市と農村との強い絆で、より活力ある町づくりをめざす但東町は、新しく迎える二十一世紀を展望し、更なる発展を遂げなければなりません。

この新しい時代を見つめ、先人の労作による資母村誌は、過ぎ去った“とき”を鮮明に思い起こしてくれます。

資母村誌

復刊なる資母村誌が「温故知新」、町民の新しい心のよりどころとなり、広く愛され、親しまれることを切望し、復刊にあたってのごあいさつといたします。

平成二年三月 日

但東町長 福田芳郎

## 資母村誌復刊に寄せて

かつて、但東町史を発刊することを提言したところ、町制施行二十周年記念事業として取り上げられ、主管の一員として参画させていただいたものであります。その町史発刊の貴重な資料となり、またその後、但馬各地で発刊される町史や郷土史の参考書としても愛された資母村誌が、この度多くの方々の熱望によつて復刊されることになり、心からお慶び申し上げます。

昭和三年十一月十日、天皇の即位の大礼が行われたのを記念して、時の村長今井甚兵衛氏の提案により、村議会の満場一致の賛成を得てスタートを切り、太田、黒田、矢野の三氏、桜井勉先生の校閲を受けて、計画以来六年有余の歳月を経て、発刊に至ったものであり、現在の情報化時代と異なり、資料収集に幾多のご苦勞があったとしのべれます。

本年は、昭和から平成になり、十一月には、大嘗祭、即位大礼が行われ、この

記念すべき時期に復刊されるのもなにかの縁ではないかと考えられます。

郷土史を研究される方、また、私ども町民として本町出身の方々にも、ふるさとを、愛する精神の一助にもなることを望んでおります。

平成二年三月 日

但東町教育長 塩 川 剛 三

# 資母村誌目次

## 第一篇 地

誌

位置—地勢—地質—山岳—河川—氣候—交通—區域—管理—產物—土地—戶數並に人口—職業別戶數—牧畜—産業組合—教育—教化團體—社寺—兵事—村歲入出豫算—村財產—租稅—諸稅額—村會及び吏員—諸團體—村役場より主要地への里程

## 第二篇 年

代

上古史概說—鎌倉時代—南北朝時代—織豐時代—德川時代—明治時代—大正時代—昭和時代

## 第三篇 神

社

概 說

村 社 比遲神社—須流神社—安牟加神社—日出神社—如布神社—如布本宮—赤野神社—八幡神社—  
奧宮神社—山口神社—岡野神社—御影神社—下村神社—森本神社—若宮神社—產靈神社—  
無格社 愛宕神社—須賀神社—稚皇靈神社—稻荷神社—吉野神社—青倉神社—罔象女神社—大將軍神  
社—阿蘇神社—若宮神社—高來神社

## 第四篇 寺

院

總説 日本佛教の沿革大要

資母村現在寺院

臨濟宗 金藏寺—藏雲寺—長禪菴—三對菴—福壽菴

曹洞宗 玉宗寺

日蓮宗 法華寺—鬼子母神堂—常寂菴—清正菴

眞言宗 多寶院

廢絶せる寺院 古金藏寺—西光寺—壽福院—寶城院—栗丹寺—高瀧寺—松源寺—極樂寺—知足菴—

梅林寺—玄通菴—少林菴—横谷菴—東光菴—知足菴

第五篇 教派神道.....一八四

總説 大社教—天理教

第六篇 教育.....一八三

總説 資母尋常高等小學校—中藤尋常小學校—赤花尋常小學校—太田尋常小學校

第七篇 舊跡.....二〇六

城跡

總説—龜ガ城—姫ノ段—岩吹城—太田氏館跡—小屋ヶ谷城跡—中山城跡—愛宕城跡—口藤城跡—  
八幡城跡—主計城跡—佛清城跡—愛宕山城跡

古墳墓

總説—奥藤古墳—蛇塚—京塚—官本古墳—千人塚—京塚—坂野古墳—太田氏墓—墓ノ町

古碑

太田判官室並に婢の墓—金藏山古碑—赤花古碑—赤花東の古碑—孝子蝶の碑

舊蹟

松坂—鑛坑の跡—土窟—御池—市場市街跡

寺院趾

了見寺—長福寺—日限地藏跡—知足菴—栗丹寺—高瀧寺—金藏寺—東光菴—極樂寺—梅林寺—玄

通菴—松源寺—藏雲寺

第八篇 人

物

三三

太田昌明—太田政頼—太田守延—寂室圓應—祐山嫩佐—鼎山一猷—孝子勘太夫—孝子蝶

—一道宗等—海門禪恪—今井良吾—妙義院日慈—眞峯宗正—敬雲宗慈—湖鱗楚東—中山

三郎—倉谷多都志—橋本龍一—中野弘—酒井與右衛門—廣州宗澤—今田禎次郎—精耕宗

侃—岩破勢吉郎—太田吉右衛門—橋本江笠—今井雨香—澁谷季藏—小畑源之助

第九篇 民

俗

二六四

概説

二六四

第一 制度及慣例

二六五

一、村役人―庄屋―年寄―百姓代―二、五人組の制度―三、親子方の慣例―四、寺檀の關係

第二 日常起居の推移……………二元一

第三 衣食住……………二元三

一、服裝其他―イ、男子―ロ、女子―ハ、兒童―ニ、裝身具―三、食物―四、住宅

第四 式禮……………三元四

一、誕生―二、冠―三、婚―四、葬―五、祭―六、年賀―七、年中行事

第五 古俗其他……………三元三

一、五節句、八朔及亥の子―イ、七種―ロ、上巳―ハ、端午―ニ、七夕―ホ、重陽―ヘ、八朔及亥の子―

二、祈禱に類する古俗―イ、狐狩り―ロ、節分豆まき―ハ、虫送り―ニ、山の神―ホ、大般若回り―ヘ、  
疫神送り―三、其他―イ、庚申待ち―ロ、觀音講―ハお蔭詣り―ニ、善いぢやないか踊り―ホ、尻はり

第六 文雅……………三元七

一、幽栖―イ、深耕易耨亭―ロ、晴耕雨讀村莊―ハ、邀月莊―ニ、結社―イ、朋友會―ロ、瓢箪會―ハ、  
根芹會―ニ、冠句會―ホ、文藝研究會

第七 民謠……………三元三

一、中藤さ、囃し―二、虫生さ、囃し―三、手毬謠―四、おじやみ謠―五、石場つきの謠―四、  
其他

附 錄……………三元三

一、訛言方言―二、忌事、俗信、及禁厭